

隧通しおよび隣接する白骨温泉

全長 20 メートルの隧通しは、湯川の急流がその通り道にある石灰岩を少しずつ浸食していったことにより、何百万年もの歳月をかけて自然に形成されました。この川は白骨温泉の温泉郷を通過しており、隧通しには急勾配でゴツゴツした岩の斜面のため近づくことはできませんが、上を通る道路から、もしくは白骨の公共浴場から眺めることができます。このトンネルの下流の川に掛かる吊り橋からは、周囲の森と足元で轟く川を一望にすることができます。

隧通しに近い白骨温泉の温泉は、このエリアの石灰岩でできた岩盤から浸出したカルシウムによる乳白色のお湯を特徴としています。このことがこのエリアにシラフネ、すなわち「白い風呂」、という元々の名前を与えました。時間の経過と共に、白く石灰化した殻が湯船の縁に形成され、それが元となって、日本語の「白」と「骨」を表す文字を組み合わせた、白骨という現在の名前になったのかもしれませんが。この温泉には回復効果があると信じられていて、人々は郷内のあちこちに設置された竹製の吐水口から、その白濁したお湯を飲みます。